

# 学力不足・学習意欲欠如の学生の指導法

—実践報告を中心として—

松本忠雄\*・永藤壽宮\*\*・西村 治\*\*\*・山本行雄\*\*\*\*

(平成8年10月24日 受理)

How to Teach Low-Motivated And Low-Grade Students

— Practice in Nagano National College of Technology —

Tadao Matsumoto, Toshimiya Nagato, Osamu Nishimura, and Yukio Yamamoto

Recently few students study very hard at home. Some students cannot concentrate on class activities through poor preparations. They do not understand what is being taught and they repeat and finally drop out.

Many teachers are aware of the present situation and they may have ideas about how to motivate the students and how to raise their achievement levels. We have asked several teachers to share their know-how. We have also discussed how we can combine our efforts in tackling the present situation.

## 1. はじめに

バブル経済の崩壊、不況、産業の空洞化、急激な円高などを背景にした日本経済は、雇用吸収力を失い、就職氷河期を迎えた。日本の産業界の要望は、技術者の量から質への転換を求めている。このような状況下で、高専は専攻科設置の方向へ向かい、国際化時代に対応できる創造性豊かな技術者の育成をめざして努力している。

ところが、現在の学生達を取り巻く環境は、テレビ、テレビゲーム、アルバイト、オートバイ、乗用車などの誘惑の渦の中におり、しっかりしないと安易な生活に流され、予習・復習の家庭学習の時間を取れない者が増えてきている。その結果、毎日の教科の内容が理解できなくなり、成績不振に陥り、学習意欲を失い、留年、退学の道を歩む者も多くなってきている。

これまで本校では、昭和49年度より学科の枠を超えた学級編成を試み、学科による学力格差の解消とやる気を起こさせる混合学級制度を実施した。また、昭和50年度よりしばらくの期間、1・2学年の英語と数学の成績不振者を対象に、週1回60～90分の補習授業を行うなどの試みが行われた。平成6年度には入学者の全体の学力向上のために推薦入学制度を導入した。

平成7年度厚生補導研究会第2分科会で「学力不足・学習意欲欠如の学生の指導法」につ

\* 一般科 教授

\*\* 環境都市工学科 助教授

\*\*\* 電子情報工学科 助手

\*\*\*\* 電子情報工学科 教授

いて話し合いが行われることになった。そこで、学力向上を図るための教科の教育方法、学習意欲高揚・成績不振者の学力向上対策などについて、日頃から工夫されている教授方法の実践例を報告していただき、さらに、カリキュラム、そのほかの制度の改革などを含め学校全体で取り組む事柄についてご意見を提出していただいた。それらの実践例やご意見は分科会の話し合いの基となると同時に、多くの先生方が参考にされ、自分の授業に取り入れ一段と実りのある授業になることを願っている。

## 2. 学力向上・学習意欲高揚のための教育方法アンケート

### 2-1 調査時期・対象

調査時期 平成7年7月

調査対象 長野工業高等専門学校 全教官（内地研究員は除く）

表1 対象者数・回収率

学 科	一 般	機 械	電 気	制 御	情 報	環 境	計
対象者(名)	26	9	10	9	9	10	73
回収数(名)	16	7	6	4	5	6	44
回収率(%)	61.5	77.8	60.0	44.4	55.6	60.0	60.3

### 2-2 アンケート調査項目および調査結果

アンケート調査項目の内、学力向上を図るための教科の教育方法（実践例）ならびに学習意欲高揚・成績不振者の学力向上対策（実践例）については、アンケートに記載された文章をできるだけ忠実に表にまとめた。学力向上のために学校全体で取り組む事柄および学習指導についての教官の自己点検評価については、実践例の表の間に貴重な意見を紹介したり、分科会の討論内容のまとめの中に入れました。

### 2-3 学力向上を図るための教科の教育方法（実践例）

一般科目は1～3学年で主に学んでおり、これらの科目の基礎学力は専門科目を理解するために役立ち、その内容は就職試験、公務員試験、大学編入学試験などに多く出題されている。卒業後の学習の基礎になり、社会人の教養として2～3重に役に立っている。

基礎学力の充実のために各教科の授業担当者は、それぞれ工夫をし努力している様子が実践例で示されている。さらに、これらの学力を確かなものにするために、3学年末に4学年進級試験を主要科目共通試験として行うことを提案する意見が見られた。

今回は主に教科の指導方法についてご意見を求めたが、学校教育はどのような人間を育てるかが一番大切である。その方面の意見として、以前は成績評価を厳しくすることが万能薬のように考えていた。そのことによりアルバイトや生活の乱れに対して自律できる学生を育てることができると思っていた。しかし、種々のタイプの学生を画一の枠で教育するのは難しいと思うようになった。厳しい先生あり、優しい先生あり、「種々の人徳」を持った先生が必要と思う。知育、体育を通じて徳育を行うことが大切で、徳育こそ自律させることにつ

表2 一般科目実践例

国語	<p>・基礎的学力（漢字）の向上策として、毎週1回漢字小テストを行い、誤字は3回訂正させ、提出させている。長期休業中に読書感想文を課し、読書をさせ、感想文を書くことにより表現力向上をめざしている。</p>
英語	<p>・土・日に英語の学習参考書の読む個所を指定し、毎週レポートを提出させている</p> <p>・新学期スタート時に於ける学習方法のガイダンスの徹底。副教材（演習問題）の導入による応用力のアップ。講義調の授業からの脱却---&gt;学生を主体的に動かし発言させる授業。年間シラバスを授業時間だけでなく、長期休業中、検定試験等も組み込み立案する。</p> <p>・基本的には、「テキストを教える」というより、「テキストで教える」ということで、重要単語を含む英語諺の紹介とその精神を示すとか、常識に直結している補足・脱線を行うことで、学生の興味を高揚させ、集中力を育成し、居眠り防止にもなる。</p> <p>・英語は技能を修得する科目、つまり演習を必要とするが、現在の授業時間数では少なすぎる。積極的な学生は外部の英語学校に通ったり、放送を利用している。授業で足りないところを補うために、英検の受験を勧めたり、英語弁論大会に参加するように勧めたり、少しでも関心のある者には相談に応じている。ある程度能力のある者は更に伸ばすように指導している。</p>
数学	<p>・選択の数学では、応用上学生の興味ある講義をするようにしている。</p> <p>・数学の基礎学力や問題解決能力を養うために問題演習を重視している。授業中の演習の他に、低学年には定期的に課題を与え、レポートを提出させている。また、章ごとにまとめのテストを実施している。</p> <p>・時々小テスト（5～10分）を行い、毎日学習する習慣をつけさせる。</p> <p>・なるべく平易でわかり易い授業を心掛けている。</p> <p>・具体的なものを通して、理解できるように工夫している。</p> <p>・定期テスト以外にも試験を実施し、学力の定着を図っている。</p>
理科	<p>・カリキュラムの中で、具体的に教育目標を学生に示し、全員が達成するように心掛けているそのためにドリルと呼び、各段階で各々の学生の理解度をcheckする。</p> <p>・授業時間数が少ないので、各論を少し省略しても、物に接する実験の時間を多くとり自然科学に興味を持たせ、起こった現象を考察する態度を養っている。</p> <p>・問題集を使い教科書の問題を補充し、理解を深めるために演習を行っている。また、大学編入学試験・公務員Ⅱ種試験受験者には、この問題集を全問回答できるように学習指導している。</p> <p>・年4回の定期試験以外に夏季休業・冬季休業後試験を行っている。</p>
体育	<p>・体力・技能共長野県は全国平均値を下回っている。少ない時間に集中して取り組みませなおかつその運動に価値を見いだせるよう考えて実践しているつもりです。</p>

ながるのではないか。学生に対して包容力をもって、成長期にある学生への「しつけ」もで

きる教育者でありたい。特に20代30代の教官に徳育の必要性を自覚して欲しいと感ずる。教育は教室と教官室のみで行うものではない。あらゆる機会（オリエンテーション、修学旅行、見学旅行、部活、合宿等）を通じて、人格形成の手助けをするのが肝要と思う。

表3-1 専門科目実践例

機 械	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製図は3週間で図面を仕上げる短期目標があるので真剣に取り組んでいる。講義は先ずいかに学生にやる気を持たせるかだが、うまい方法がない。</li> <li>・今何が問題になっているか、最新情報をトピックス的に話している。これが学力向上に直接関係するとは思わないが、高等教育では必要であるし、興味を持ってくれば良い。</li> <li>・基礎科目は編入試験に出題されるので、過去に出た問題を配布している。</li> <li>・講義はOHPを用いて図で理解させる方法を取り、現物を見せたり、実習工場を見学するなど、できるだけ物を媒体として教えるよう心掛けている。</li> <li>・シラバスを作成し実行している。アルバイト、部活、基礎学力不足などが原因となっているためか、必ずしも効果を挙げていない。</li> </ul>
電 気	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容その日の内に演習し、演習を通して理解を深め、必ず提出させ、成績評価の参考としている。</li> <li>・具体例を挙げて説明したり、言葉で説明すると共に板書を心掛けている。前回の授業の要点を授業のはじめに説明している。</li> <li>・自分で考える習慣をつけさせるために、演習問題を与え、レポートを提出させている。</li> <li>・電磁気学では暗記を少なくし、ある現象の結論まで自分で導く勉強法を奨励する試験では数式の途中経過を手を抜かず自分で解いているか細かく採点する。</li> <li>・高学年では採点した試験問題を学生に戻した後、回収する。過去問題が出回るのを防ぐ。</li> <li>・4年生の実験で大実験を実施し、個人個人のやる気と理解がなければ実験できないテーマを与え、効果を挙げている。</li> <li>・ある程度講義が進んだら、復習の時間を設け、質問を受けている。</li> <li>・先ずconceptを全員に理解させ（この段階は数式が入らないので、誰でも理解可能）、その後targetにaccessするためのskillを教える。</li> </ul>
制 御	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席の点呼代わりに小テスト（問題1題）を実施している（不定期）。</li> <li>・講義科目は週1回程度で演習を主としたReportの提出を課している。60分の定期試験で暗記力を試されるのではなく、時間はかかってもじっくりと考察し、確かな学力を身につけるように話していますが、他人のReportを写し（写しても内容を理解すれば可）提出する事が目的のようで、問題を含みます。</li> <li>・実験は理解度の個人差が大きいので、実験中のあいている時間は個人的に説明をする。</li> <li>・全講義に出欠表（B5, 半期で1枚）を学生に配り、その時間での質問や感想を書かせたり、授業中に行う演習（毎時間か、2回に1回）の解答を書かせる。</li> </ul>

表3-2 専門科目実践例

<p>情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生では出席点を20%とする事を学生に伝え、出席率を高くするようにしている。</li> <li>・基礎的な科目は成績が良いが、応用的な科目は成績が悪い。基礎的な部分が忘れてしまっているので、定期的に復習を含めた内容を行っている。</li> <li>・1単位の教科は隔週、2単位の教科はほぼ毎週演習を行っている。</li> <li>・実験・実習はできるだけ学生自らが考え、自分で行動できるようにアドバイスしていく。</li> <li>・授業において学んだ実験・解析・設計の手順を、一台の機械を試料にして、最初から最後まで一連のレポートを作成し、自動制御の全体的把握をさせている。レポートは各自30~40ページになる(5年E, J)。</li> <li>・講義の中に適度に緊張感のもてる課題を配置すると共に、その報告書をA4形式にし学生と教官の間で何回もやりとりする方式をとっている。</li> </ul>
<p>環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製図：ダンボールで座標系の模型を数個作成、そこに平面や立体、直線や点を置いて、どう描かれるか、個人の理解度に合わせて、自分で納得できるよう、抽象概念だけでなく教えた。理解力促進のためテストも行った。</li> <li>・水理：小・中や本校低学年で学んだことや経験済みの事柄を例に、微分方程式における各項の物理的意味と結び付けて理解させる。</li> <li>・河川：単なる式の暗記や理解だけでなく、長期休業を利用した現地踏査を取り入れ、総合化の訓練や報告書のまとめの基礎等の訓練を行い、内容的に変化を持たせている。</li> <li>・講義：例えば、最適解を得る方法について、演習の形で各人異なる数値による計算を分担させ、その結果を集めてグラフ化すると、数式がよく理解できる。</li> <li>・実験・実習中は、「ただ作業だけするのではなく、考察の種を捜すことを心掛ける」指導をしている。評価も「考察の記述」に重点をおく。</li> <li>・設計製図：毎回その時間内に完成するような課題を与え提出させる(1年生)。</li> <li>・OHP等を利用して、文章としてよりも図または絵として、教科内容を理解してもらおう。</li> <li>・演習問題を解かせて、理論・計算式を理解させる。</li> <li>・図面と対応した実構造の写真を見せる。</li> <li>・居眠り、内職等している学生を指名して答えさせる。</li> <li>・講義のビジュアル化をコンピューターなどを使って実施している。</li> <li>・設計製図：一人一人に寸法の異なる課題を与えている。そのため他人の丸写しはできず、自分自身で計算、製図を行う。設計に当たり、数学、構造力学、鉄筋コンクリート工学、土質工学などを総合的に勉強し、完成時の喜びが大きい。</li> </ul>

また、画一的な教育である学年制を廃止して、単位制を導入すべきだとの意見があった。学習者自身の「自由意志による」勉強への参加が学習意欲高揚と学力向上につながる。そのためには、「単位制」の導入と授業の選択の自由を増す。そこに「飛び級」、「低学年でも

高学年の単位がとれる仕組み」を入れる。「学生は教師の背中を見て育っている」ことを考えやる気のある、向上心のある学生を育てるためには、教員が率先してやる気（研究心・探求心・勉強意欲）を持つことが大切であろう。

## 2-4 学習意欲高揚・成績不振者の学力向上対策（実践例）

表4 一般科目実践例

国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典学習について、前年度実施したアンケート回答により教材の精選、現代語訳を付けるなど改善し、理解しやすい授業に変えた（学習意欲の高揚につながったか否かは今後の検討課題）。</li> <li>・2学年の成績不振者15人を春休み中、再試験前に3日間補習授業を行った。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英字新聞で興味ある記事を適宜印刷し、興味の喚起に努めている。</li> <li>・成績不振者の対策は、学級担任と教科担任が連絡をとり、学生の現状を早めに把握し対策をとると良い。</li> <li>・テストのみで評価せず、学び方を学ばせる中でレポート、課題を積極的に評価してやる多角的、形式的評価の実践</li> <li>・ノートの取り方の指導、辞書の引き方の指導、予習・復習の仕方の指導を懇切に行う。</li> <li>・夏の英語セミナーとか校内英語弁論大会などを行うことにより、学生に刺激を与えたい。</li> <li>・成績不振者に対しては課題を小さく、また、具体的にするのが効果的と考え、単語小テスト、教科書付属のワークブックの点検などを行っている。</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年の成績不振者には特に課題を与えている。</li> <li>・2学年当初に一斉テストを実施している。クラスによりかなり学力差がでる。</li> <li>・数学概念の直観的把握力や学習意欲を育てるために、コンピューターを中心にしたニューメディアを積極的に活用し、A V C室で授業を行っている。</li> <li>・定期テストで、できない学生にもう一度テストをやることあり。</li> <li>・パソコンを利用することにより、数学の概念を視覚的、動的に表現し、学習意欲の高揚や直観力の向上に努めている。</li> <li>・試験後、必ず不振者に対して再試験を実施し学力の定着を図っている。</li> <li>・不振者を教官室に呼び、補習を行っている。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績不振者の早期対策、課題、ドリルなどで注意し、補講を含め早く手を打つ（特に1年生は大切）。</li> <li>・試験で80点以上の学生を発表し、ほめてやることは励みになる。</li> <li>・成績不振者を集め年数回、土曜日に補講をしている。</li> <li>・昨年度1年生全体に対して、定期試験の他に救済テストを3回実施した。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位数が少ないので、比較的意欲のある学生が目立つが、天候、時間割などにより出席率が落ちる者もいる。学生の能力・希望・個性等に見合った種目を実施できるよう、また、自らが課題を設定できるような工夫をしております。</li> </ul>

表5 クラス指導実践例

<ul style="list-style-type: none"> <li>・反省記録，目標を不振者から提出させたり，学習時間のcheckをする。</li> <li>・活躍している進学・就職した先輩の様子を話し，後に続くように励ましている。</li> <li>・クラスの学生と成績について面談し，生活状態を把握したり，学習方法の話しをする 前期・後期中間終了時の成績をみながら，成績不振，生活態度が改まらない学生には家庭連絡をとり協力を求めている。</li> <li>・クラスの雰囲気作りが大切と考える。教室をきれいにすること，勉強に取り組む雰囲気を作りたい。特に，成績不振者とは個別に話す機会を持っている。</li> <li>・遅刻，欠席に目を配り，早めに本人と話しをし，時には保護者と話す。担任の目が絶えず本人に向いていることを意識させ，自律できるよう努める。</li> </ul>
--

表6-1 専門科目実践例

機 械	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の終わりにその日のポイント（重要な公式の整理など）を要約するようにしている。</li> <li>・身近な現象と教科の結びつきを説明し，興味を持ってもらうようにしている。</li> <li>・会社での仕事の話しをしながら，身近な製品などと関連付けながら説明をしている。</li> <li>・企業での体験談や産業界の現況などを交えて，将来の進路や社会の高専卒への期待度などを話して，今学生は何をすべきか考えさせ，仲間意識を引き出し，全員がやる気を起こすよう指導している。</li> <li>・定期試験ごとに追試験を行っている。演習問題を解かせて，レポートさせている</li> <li>・以前より少しレベルを落とし，できるだけ分かりやすい説明を心掛けている。</li> </ul>
電 気	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年末に各単元毎の理解度のアンケートを取り，次年度の授業に反映させる。</li> <li>・A V C教室を積極的に利用している。</li> <li>・無断欠席は成績から減点することを学年始めに伝えておく。</li> <li>・早い時期に専門の電気に興味を持たせるために「電子タイマー」を実際に製作している（1年）。</li> <li>・試験成績がある点数以下の者に，一定期間後，試験問題と同じ問題を解かせ，全問正解だとある点数を与える。</li> <li>・自分の人生経験とか時事問題の話とかを話しています。</li> <li>・技術者としての意識を持たせるため，興味のあるビデオ「電子立国」「アポロ13号危機からの脱出」などを見せています。</li> <li>・講義だけが教育ではないと思い，年に一度一般教養として，クラシック音楽の鑑賞をしている。</li> <li>・skill重点主義を改めている。</li> </ul>
制 御	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子回路：中間試験後，成績不振者に毎週月曜日放課後，1時間の補講を行っている。</li> <li>・学生と話し合い，何を考えているか理解する。欠席などの理由の把握。</li> <li>・学生自身が何をしなければならないかを気付かせ，実行するように指導する。</li> </ul>

表6-2 専門科目実践例

<p>情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例を挙げて分かりやすい授業をする。</li> <li>・初めての内容、慣れていない教科は導入時の進度を遅くする。ある一定の内容が全員に理解されるまで進まない（マイコン）。</li> <li>・専門教科の内容、応用、科学的な話しをして、興味を持たせるよう努力をする。</li> <li>・はつらつと授業をする。</li> <li>・覚える、覚えさせる授業でなく、理解させる、考えさせる授業に徹し、成績不振者が発言できる場を作るように心掛けている（成績優秀者より優れた答を出すことが多い）。</li> <li>・余り難しすぎず、簡単すぎない内容を選択し、多少学習内容が減っても、じっくりと考えることに重点を置くようにしている。</li> <li>・簡単な練習問題を沢山出し、レポートを提出させ、日常の学習理解の補充にしている（2年）。現実には成績不振者のレポート提出状況が悪く、学力向上に結びつかない。</li> <li>・成績不振者については課題を通じて個人指導を行っている。部活の練習後になることが多い。</li> <li>・学習意欲高揚のためには、課題として独自性（独創性）が発揮し易いものを選定すると効果がある。</li> </ul>
<p>環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある程度学生が線型で予想できる成績をつける。</li> <li>・不明な点は授業時間内またはその日の内にしっかり理解できるように指導している。終了後や放課後質問に来る学生が多い（3年）。</li> <li>・クラスの成績不振者について、専門科目の個別指導を試験前に行っている。</li> <li>・出来るだけ学生と接触する機会を多くし、本人の特徴を知り、自覚を啓発する努力が必要。</li> <li>・学校で習うことは技術者としての基本中の基本であることを承知させ、身に付けるよう心掛けさせている。</li> <li>・先輩達の進学の話をし、目標を持って努力するよう心掛けさせている。</li> <li>・「技術者は高い品格を備えた紳士淑女であるべし」と自覚を促している。</li> <li>・環境論：一人20分程度の持ち時間で教材を下調べしてきて、発表する形式を採用している。ゼミ形式の授業であるが、形ばかりの者、しっかりと他の参考資料を用意する者等おおむね興味を持っている者が多い。</li> <li>・放課後個人的に教官室に呼んで補習をやる。</li> <li>・担任に連絡して保護者とも協力して頑張らせる（3年以下の成績不振者）。</li> </ul>

高専の将来像についての意見として、地域のI-T校にするための提言、①普通高校からの編入を受け入れる。②3年で大学受験を受けさせ、不合格の場合はそのまま在籍させる。③地学、生物、第2外国語を充実させ、将来学生がどの方向にも進めるように、また、時代の変化に対応できるように基礎教育に重点を置く。④高専を早期に大学に昇格させ、1～3年を付属高校とさせる。この場合も7年間の一貫教育は継続させる。⑤将来は長野県の産業、芸術方面を担う総合教育・研究機関にする。



### 3. まとめ

平成7年度 厚生補導研究会 第2分科会「学力不足・学習意欲欠如の学生の指導法教育活動の充実と自己点検評価について（主に学習指導について）」

司会 永藤壽宮，記録者 西村 治，発題者 松本忠雄，出席者 山本行雄，佐野秀則，風間悦夫，小林義一，山田達朗，松島久夫，堀込泰雄，芳賀 武，中島隆行，小野伸幸，和崎克巳，柴原信雄，上條直秀，服部秀人，上村与四郎，中村護光，中村博雄，前田善文，小澤志朗，堀内泰輔，岡村謙司，米持 進。

#### 3-1 学力向上・学習意欲高揚のための教育方法

##### (1) わかり易い授業

授業自身をわかり易い授業，興味を持てる授業など工夫することも大切だが，学生が分かったかどうかいつもチェックすることが一番重要である。チェックの方法は口頭での質問，演習問題を解かせる，宿題にしてレポートを提出させる，授業中に小テストを行う，授業の終わりに感想を書かせるなどの方法で学生の理解度や授業に対する反応をみて，次の授業に反映していく。

##### (2) クラスの学習に取り組む雰囲気作り

授業中静かに勉強に集中できるクラスの雰囲気作りに担任として一番苦労している。担任として授業，特活，清掃時間などできるだけ学生と接する機会を多くし，良いクラスづくりをしている。ところが，1～2名の留年者を受け入れたことでクラスの欠席者が多くなり，落ち着かないクラスに一変してしまうことがある。また，中学などで生徒会，クラブ活動の役員を経験し，優れたリーダーシップを発揮する学生に恵まれたりすると担任が苦労しなくても素晴らしいクラスになることもある。同じクラスで二年間過ごすと，学力に大きなクラス格差ができることを多くの教科で経験している。

##### (3) 入試制度の修正

平成6年度より，広く全県下の中学校から成績優秀者を入学させようと，推薦入学制度を導入した。ところが学力検査は5科目（国語，数学，英語，理科，社会），各科目100点満点の試験が長年続けられている。果たしてこの方法で高専に適性のある学生を入学させることができるのか，今後検討していく必要がある。例えば，入試の段階で数学や理科にウエイトを置いた配点をしてみてはどうか。

##### (4) 単位制の導入

3学年までに修得しなければならない基礎科目は，専門の科目を理解する上で重要であり，社会人としての一般教養としても役立つので，低学年はほとんど必修科目になり，大学の単位制のようにはいかない。もし導入するとすれば，4・5年当たりで履修単位を増加させ，選択できるようにしていくことがよいだろう。

##### (5) 仮進級制の導入

学年制では，成績不振者が留年しているが，最近の留年者は，1年重ねて履修しても成績を向上させる学生が少なく，良い結果を得ていない。また，留年は前年度成績優秀で修得した科目も再び履修しなければならない。

低学年では仮進級制を導入し，翌年未修得の科目を個別指導をして合格させ，どうしても

不適應を起こした学生は3学年で進路修正できる道を創ることが必要であろう。

#### (6) 施設設備

単位制導入による選択科目の履修，小人数によるゼミ形式の授業導入などを行うには教室数が不足している。図書館に付属の学習室を設け，学生同志が教え合ったり，自由に勉強ができる場を創る。関東信越地区合宿所である黒姫山荘を2クラス定員で男女が宿泊でき，80人収容の特別講演室を設けたり，セミナー用の教室を2～3室備え，勉強合宿のできる施設に充実させる。

### 3-2 教育活動の充実と自己点検評価（主に学習指導について）

(1) 各時間あるいは各章ごとに演習，レポート，小テストなどを通して，シラバスに明記した教育目標に到達しているか，学生の理解度を知ると共に自己の授業方法の改善に努める。

(2) 学生に授業方法のアンケートをとり，教科内容，教え方「理解し易いか」「実力向上が実感できるか」など学生の声を授業に反映させ，役立てていく。

## 4. おわりに

実践報告を詳細に報告していただいたり，学校全体で考えて行かなければならない貴重なご意見をお寄せになった全教職員の皆様を個々にご紹介できなかったことを深くお詫びすると共に分科会で討論に加わった方々同様深く感謝いたします。

実現可能な項目を個々の先生方が取り入れ，学校全体で制度を改善することなどはそれぞれの委員会で検討していくことになるでしょう。しかし，どんなに制度を変えても「勉強しない学生はやらない」最後はマンツーマンの指導で理解させ，実力をつける努力が必要になるだろう。との意見を申し添えます。

## 参考文献

- 1) 長野高専，「工業高等専門学校教育改善－試行結果の報告－」，pp. 69-82, pp. 83-100, 1977
- 2) 長野高専，「工業高等専門学校教育改善－試行結果の報告－続編」，pp. 33-42, 1979
- 3) 長野高専，「混合学級制実施の評価」，1990
- 4) 長野高専，「昭和60年度厚生補導研究会報告書」，p. 17, P21, P. 33, 1986
- 5) 長野高専，「昭和62年度厚生補導研究会報告書」，pp. 10-23, 1988
- 6) 長野高専，「平成5年度厚生補導研究会報告書」，pp. 24-35, 1994
- 7) 長野高専，「平成7年度厚生補導研究会報告書」，pp. 36-61, 1996
- 8) 梅津善雄，「中学校生活と高専入学後の学習態度」高専教育，第10号，pp. 123-130, 1987
- 9) 野田重太郎，他3名，「本校学生の学業成績に関する一考察（宮城高専）－成績の推移とその特徴－」，論文集・高専教育，第16号，pp. 134-138, 1993
- 10) 大濱茂生，「私達の教授法－豊田高専における教育実践報告－」，論文集・高専教育，第18号，pp. 209-216, 1995